

# 公開講座活動報告

法人・団体名 あわじ助産師会

テーマ「楽しい妊活しませんか？」

～不妊治療の最前線にいるエンブリオロジストにきいてみよう～

講師 菊池 宏先生

(臨床エンブリオロジスト・不妊カウンセラー・臨床検査技師)

開催年月日 平成30年10月20日(土)

13時00分～15時00分

会場 兵庫県洲本市健康福祉館 3階会議室

## 講演概要

「楽しい妊活しませんか？」

### 1. エンブリオロジストの仕事について

高度不妊治療の現場について

画像をたくさん用いて先生のクリニックや、大阪のクリニックなどの高度不妊治療の現場を紹介してくださった。どんな職種がいるのか、どのような気持ちで向き合っているのかなど、丁寧に説明されていた。

### 2. 妊娠の成り立ちについて

妊娠の成立についてアニメーションを用いて説明された。

精子側の検査では分かること、分からないこと、検査できないことがあるという。特に、精液検査をすれば、精子があるかどうか、直進している精子かどうかはわかるが、受精する能力や卵子に入っていける能力についてはわからない。

また、排卵の機序についてアニメーションで説明があったのち、排卵・卵子についても検査で分かること、分からないこと、検査できないことが紹介された。超音波検査をすれば分かることは、卵胞が大きくなり、排卵(卵子は確認できない)しているかどうかである。しかし、排卵された卵子を卵管采が捕足しているかどうか、つまり、精子と出会えるかどうかはわからない。事例として、排卵は確認されるのに、なかなか妊娠に至らない女性の外科的手術の際、卵管采の腹膜への癒着、卵巣の癒着による低位置などが確認されたことが報告された。

受精卵の検査で分かること、分からないこと、検査できないことでは、これらの受精生涯については精子側または卵子側、あるいは精子卵子両方の機能障害で起こる。体外受精や顕微授精を実施して初めてわかる。

受精卵が育つということについては検査ではわからないという事である。発育、分割が途中で停止したり遅れたりすることがある。また、よい受精卵に育たないことがある。体

外受精や顕微授精で培養して（培養液内で育てる）初めてわかる。

着床については、多くの場合は、着床する場である子宮内膜が十分に育っているか（厚くなる）。超音波検査をおこない確認する。しかし、着床の場に受精卵が輸送されているかどうか、子宮内膜に着床する能力があるかどうかはわからない。

妊活とは、妊娠するために、自分自身で活動すること。具体的には、「妊娠についての知識を身に付ける」「妊娠にあたって自身の身体の現状を把握する」などといった活動。である。

### 3・卵子の老化

産みたいのに産めない。卵子の老化について、35歳から44歳の女性の言葉。

「35年間、誰も周りから教えてくれなかった。学校の性教育では、性病や避妊についてだけしか学ばなかった。いまさら言われてもどうしたら・・・」

「卵子が老化するということを知っていたなら、もっと早く将来設計ができたであろうと思う。やはり学校教育でも必要なことで、社会や企業においても意識を変えていくことは大切だと思う。」

